



見慣れた風景と見知らぬ世界

学術委員会担当理事 齋藤京子
電子情報管理委員会担当理事

ある朝、通勤の途中に咲いている花の種類を数えてみたら約30種類、密集した住宅地に意外に多くの草木が何気なく花を咲かせていることに驚き感激しました。足早に通り過ぎている見慣れた風景の中にも季節の移り変わりと共に、小さな見知らぬ世界があります。

放射線技術の世界、核医学診療の中にも、見慣れた環境の中に見知らぬ驚きがあります。この見知らぬ驚きは私の研究の第一歩です。歴史的には、甲状腺摂取率測定装置、レノグラム装置、スキャナー、ガンマカメラ、SPECT装置、PET装置、CT付きガンマカメラと科学技術の進歩と時代的な背景を受けて核医学機器・放射性医薬品が開発され、核医学診療は発展してきました。新しい機器と放射性医薬品の登場に、それぞれの諸先輩技術者は戸惑いと驚きをもって、それらを駆使した核医学技術を臨床に有効に役立てるために努力をされてきたものと考えます。試行錯誤を繰り返し、その成果を学会で発表し、論文に残されました。これらの足跡は、今、私たち核医学技術者の共通の財産でもあります。何気なくガンマカメラなどを駆使して検査を行っておりますが、その中にも諸先輩の核医学技術の遺産が隠されていると思います。そして、会員皆様の現在の研究の積み重ねが新たな核医学技術の財産となり、後輩に引き継がれていくものと考えます。多忙な日常業務中で、研究を積み重ねることは誰にとっても容易ではありません。職場の環境や家族の状況によっては、心身の負担が大きくなる場合もあります。それでも、諦めずほんの少しずつ一歩進む勇気を会員一人一人が持ち続け、自己研鑽を続けることは尊いことと思います。学術委員会では核医学技術の発展に貢献するために研究助成制度を設けております。会員の皆様にこの制度を研究の一端として有効に利用していただきたいと願っております。

高坂前学会長の下にプロジェクト委員会として発足しました電子情報管理委員会は、本年度から常設委員会として活動中です。昨年度から学術総会でのUMINを利用したオンライン演題登録システムが稼働し、第23回学術総会では多くの会員の皆様に利用していただきました。また、学会ホームページも会員、非会員の皆様に利用していただき、第10回核医学技術セミナーでは多くの方々からのセミナーの問い合わせをいただきました。理事会や各委員会ではUMINのメーリングリストを利用した電子会議も行われており、迅速な対応や経費節減が図られております。発足してから月日が浅い委員会であり十分ではありませんが、会員の皆様のご理解とご協力をいただきながら本学会の電子情報化の推進に貢献したいと考えております。

最後に、本学会は会員数約800名と小さな母体の学会です。インビトロ検査においてはnon-RIA化が進み、はたまたローテーション化により会員数の減少が避けられない状況にあります。会員数が少ないため社会的な活動に制約も存在します。それゆえに、会員一人一人の力が大きな意味を持ち、自らが作り上げるといふ思いが、学会の活力の源と考えます。小堺学会長の下に準会員制度が新設されました。多くの若手の方々に本学会に参加していただき、核医学技術を継承し普及させることができればと願っております。学会に参加発表し、見慣れた世界の見知らぬ世界にチャレンジしていただければと願うだけです。